

● 空港内緑地刈草の飼料化



空港内の緑地は定期的に草刈を行い、刈った草はロール状にして運び出しています。



刈草の一部は、飼料として県内の牧場に提供しています。
(刈草の焼却処分量を少なくすることでCO₂の発生を抑制しています)



このほか刈草の発生を抑えるため
自動草刈機の活用も検討しています。
(毎日草を刈るため、刈草が短く
集める必要がありません)

福岡国際空港 (FIAC) では、航空機が安全に運航できるよう空港土木施設 (滑走路、誘導路、エプロン、ターミナル周辺道路など) の点検や工事を行っています。
上記の刈草のほか、工事で発生する廃棄物 (アスファルト殻など) もリサイクルに努めております。

●ターミナルビルにおける環境負荷低減に向けた取り組み

【自然採光】

福岡市営地下鉄と直結する国内線旅客ターミナルビル地下2階アクセスホールは吹き抜け空間となっており、自然採光を取り入れることで昼間の照明利用を軽減しております。



【照明のLED化・センサーによる自動消灯】



館内照明は消費電力の少ないLED照明を採用し（国内線全域導入済み・国際線は順次導入中）、また光センサーと人感センサーを使用し、外部からの光が明るい時間帯や通行がない時には自動的に消灯しています。

【low-e複層ガラス】



国内線旅客ターミナルビルの窓ガラスは断熱性・遮熱性を高めた構造の複層ガラスを採用し、建物内の空調効率を高めています。

【壁面の緑化】

より環境に優しい空港を目指す一環として、国内線旅客ターミナルビルの壁面の緑化を行っています。



●ターミナルビルにおける環境負荷低減に向けた取り組み

【太陽光発電】

国際線旅客ターミナルビルの屋根に太陽光パネルを設置し、同ターミナル内の照明・空調の電力源として余すことなく活用しております。



【ガスコージェネレーションシステムの利用】

国内線旅客ターミナルビルにおいてガスコージェネレーションシステムを導入し、夏季昼間の電力ピークカットを行い、電気需要平準化に取り組んでいます。

【ターミナルビル別棟(オフィス棟)のLEED認証取得】



2015年3月に竣工した国内線ターミナルビル別棟(オフィス棟)はLEED認証(米国の環境に配慮した建築物の評価制度)を取得しました。同認証の取得は九州における三例目にあたります。

【主な特徴】

- ・トイレ洗浄水に排水の再生処理水を利用、また節水型トイレ器具を採用
- ・照明はすべてLED照明とし、光センサー・人感センサーにより照度を調整
- ・壁面緑化により壁面温度の上昇を抑制し、都市全体のヒートアイランド対策、室内環境の向上に寄与する

●ターミナルビルにおける省資源・資源循環に向けた取り組み

【中水・井戸水・雨水の活用】

手洗いやトイレからの排出水、および井戸水・雨水をターミナルビル内で浄化处理し、トイレの洗浄水として活用し、節水に取り組んでおります。



井水浄化装置

【節水型トイレの採用】



節水の一環として国内線旅客ターミナルビルでは節水型トイレを採用しています。

【再利用素材の活用】

2020年に完了した国内線旅客ターミナルビルの大改修においては、建築素材として再利用素材を積極的に導入、活用しました。



展望ウッドデッキの床面素材



ビニル床タイル

【管球リサイクル】

ターミナルビルで使用した管球のリサイクルを実施しております。



●ペットボトルおよび缶のリサイクル



左より①一般ごみ(可燃)②ビン・不燃、カン③新聞・雑誌(古紙)、ペットボトル

福岡国際空港（FIAC）では従前より、お土産品等搬入時のダンボールや新聞・雑誌、事業所からのシュレッダーゴミ等の紙類リサイクルに取り組んでいましたが、2021年3月よりペットボトルおよび缶のリサイクルを開始致しました。

お客さまの分別へのご協力により、開始以降ペットボトルおよび缶で月平均3.5^ト程度のリサイクル実績となっております。（2021年7月現在）

今後も、3 R 活動の一環として上記に留まらず、様々なリサイクルに取り組んでまいります。